

富山大学の学際融合教育プログラム「全学横断 PBL」

2022

University of Toyama : Design Thinking Education

デザイン思考 × 専門性 = 社会に求められる人材



富山大学の全学部を対象とし、それぞれの学部で異なる専門教育を受ける学生達が混成チームを組み、デザイン思考による協働ワークショップを通じてイノベティブな課題解決を目指します。

- **さまざまな他学部学生との共創、だから生まれ出るイノベーション体験！**
総合大学の利を活かした融合教育、その無限の可能性、共創の有用性に気づきましょう。やってみなければもったいない！
- **社会人との協働（産官学）による、より実践的な学修**
机上の作業に留まらないよう、様々な分野の社会人の方々にも参加してもらって実践！



👉 学修HPにアクセス。授業内容の説明をご覧ください。

「全学横断 PBL」：都市デザイン学部の開講科目 /
（都市デザイン学部以外の学生は、他学部履修科目とな



富山大学 〒930-8555 富山県富山市五福3190
都市デザイン学部 事務室 Tel. 076-445-6698 E-mail: tdesign@adm.u-toyama.ac.jp URL: <https://sus.u-toyama.ac.jp>



いしろう
大学

令和2年度から夏季集中講義で開講中!!

合教育プログラム
「全学横断PBL」

ちょっと固い言葉ですが、・・・つまり、私たちの暮らしが今より安全で安心、豊かになるように、そしてその生活が持続できるように、みんなでワイワイガヤガヤし、新たな仕組みや考え方を見つけようということです。

生み出したアイデアを、全国・全世界に発信！！

● 履修登録とその後の流れ：

	9月26日(月)	9月27日(火)	9月29日(木)
8:45	オープニング 全体参画	全体参画 グループ・ワーク	全体参画 グループ・ワーク (バスター旅行)
9:45	ウェルミングアップ (アイスブレーク)		
11:00	グループ・ワーク		
11:30	昼食	昼食	バスター旅行帰国
12:30	模範 / 外語メニュー紹介	グループ・ワーク	昼食 口頭発表 (模範参画)
14:00	グループ・ワーク		
15:00	コーヒーブレイク	コーヒーブレイク	ポスター発表
16:00	グループ・ワーク	グループ・ワーク	
17:00			
18:00	振り返り	振り返り	振り返り
	終了(最終付)	終了(最終付)	終了(最終付)

- [illegible]

今年度は、下記の18個のテーマを用意しました。希望するテーマを選んでください。(3個以上)

- [illegible]

基本的には学生主体でワークを進めてもらいますが、できるだけ多くの学部の先生方に加え、様々な分野の社会人の方にもそれぞれのグループに加わっていただき、生活者の先輩として、また、それぞれの専門的立場で意見やアドバイスなどをいただこうと考えています。

昨年度の協力企業・団体一覧： 富山市（環境政策課／未来創製室／活力都市推進課／都市再生整備課／中心市街地活性化推進課／産業推進課／観光政策課／企業振興課）、公益財団法人富山県リサーチパーク・ラボ、NPO法人として2つの呉羽炭、安達炭株式会社、富嶽三井株式会社、NPO法人富山県環境・企業振興株式会社、株式会社サンプラザ、富山大学学生同業協会、富山県学生同業協会の会友、社会法人日本卸売会会友企業、青年海外協力隊富山県OB会、合同会社LUXGM、特定非営利活動法人工務会友の会、TEKNO NITE「転換ノイト」、前富嶽工業株式会社、株式会社スタジオサンプラザ、株式会社H・DEKUM、株式会社デザインカレッジ、北信濃青年会議所、（順不同）

目次

はじめに 授業の趣旨	4	6. これからの時代の新たな－シェア－を考える	16
タイムライン.....	5	7. 富山の魅力を伝える新たなPR法.....	17
プレ・レクチャー 趣旨・1	6	8. 富山でユニバーサルデザイン	18
プレ・レクチャー 2／ミニ・レクチャー	7	9. 楽しい・新たな「歩き・回遊」で健康をデザイン	19
授業風景 1	8	10. 目利き観光客が「納得」する、富山〇〇ツアー	20
授業風景 2	9	11. 廃校の新たな活用方法を考える.....	21
各グループのテーマ一覧.....	10	12. 森林の循環利用をデザインする.....	22
1. 私たちだからできるこれからの起業	11	13. ジオパークで遊びをザイン.....	23
2. 『地域に点在する〇〇』で、SDGs	12	14. 路面電車のネットワークとまちづくりを考える.....	24
3. 富山のライブ・データ、その活用方法を考える	13	連携・協力企業団体	26
4. 富岩運河を活かしたまちづくり	14	本学関係協力教員・実行委員	27
5. 富山の『お土産（お持ち帰り！）』	15	おわりに.....	28

はじめに

「全学横断 PBL」は、全学部の学生を対象とし異なる専門教育を受ける学生達が混成チームを組み、デザイン思考による協働（ワークショップ）を通じてイノベティブな課題解決を目指す授業です。個々の学部の中では狭くなりがちな視野や発想の幅を拡げ、異なる専門性を有する者同士のコミュニケーションがいかに重要で効果的なものであるかを体験的に学修するため、学内のみならず企業や行政とも連携し、産官学金の協働によるクリエイティブなワークショップとなっています。

●授業の進め方について

共通目標は、「富山の地域循環共生圏」創りとし、関連した14のテーマに取り組んでももらいました。テーマ毎のメンバーは、他学部の学生を含んだ6人で構成。

連携企業・行政、協力教員、授業担当教員の皆様には、主に『先輩の生活者として』グループワークに参加。初日、2日目の午後に設けているコーヒータイト（相談タイム）においては、それぞれのブースにおいて『専門家の立場として』各グループの相談に答え、アドバイス等をいただく。

※相談タイムを有効に生かすための参考情報として、事前に連携企業・行政、協力教員、授業担当教員には、自社・自身の専門に加え、相談に答え・アドバイスできるテーマおよびキーワードを提示していただき、その一覧表を学生に配布。

※本番の集中講義に向け、履修学生の皆さんの参考となる共通目標や各テーマに関連する講演（3回のプレ・レクチャー）を事前プログラムとして企画。

2022「全学横断PBL」集中講義（3日間）タイムライン

9月24日(月)	9月27日(火)	9月28日(水)	9月29日(木)
8:00 集合(関係者)	8:00 集合(関係者)	※必要に応じて各G単位で 自主的活動等に有効活用	8:00 集合(関係者)
8:30 開場	8:30 開場		8:30 開場
9:00 オープニング(学長挨拶)(多目的ホール)	9:00 ミニ・レク(多目的ホール)		9:00 全体説明(多目的ホール)
9:15 全体説明			9:20 グループ・ワーク (2F:各講義室) (プレゼン資料作成)
9:40 アイスブレイク			
10:00 グループ・ワーク (2F:各講義室)	10:15 全体説明(多目的ホール)		
	10:30 グループ・ワーク (2F:各講義室)		
11:00			
12:00 昼 食	12:00 昼 食		12:00 昼 食
13:00 連携企業／教員等紹介 (多目的ホール)	13:00 グループ・ワーク (2F:各講義室)		13:00 発表会(前半)(多目的ホール) (※10分発表／4分質疑応答／ 1分入れ替え)＝15分×7グループ
13:40 グループ・ワーク (2F:各講義室)			
15:00 コーヒーブレイク (相談タイム／指定講義室)	15:00 コーヒーブレイク (相談タイム／指定講義室)		15:00 休憩
16:00 グループ・ワーク (2F:各講義室)	16:00 グループ・ワーク (2F:各講義室)		15:20 発表会(後半)(多目的ホール) (※10分発表／4分質疑応答／ 1分入れ替え)＝15分×7グループ
18:00 ※振り返り／後片付け	18:00 ※振り返り／後片付け		17:30 閉会式(渡邊学部長挨拶) ※振り返り／後片付け
			18:00

富山大学の学際融合教育プログラム「全学横断PBL」開講に向けた

Online Pre・Lecture to Design Thinking Education

オンライン プレ・レクチャー

「全学横断PBL」は、9月26日(月)／9月27日(火)／9月29日(木)の3日間、集中講義で実施されます。開講に向け、学生の皆さんに参考にしていただき、本番までのモチベーションアップにつなげてほしいとの考えから、今回取組んでもらう下記のテーマ、共通目標である「富山の地域循環共生圏」に関連する内容の講演を、事前プログラム（2回のプレ・レクチャー）として企画しました。

プレ・レクチャー1

9.10(土)13:30～15:00

『持続可能な社会創りにおける 金融機関の役割』

村本 隆氏

(株)北陸銀行 地域創生部長

1967年生まれ。高岡市出身。金沢大学卒業後、北陸銀行に入行。名古屋、北海道、富山、石川、本部、高岡地区等12カ店(うち支店長5カ店)経験し2022年7月より地域創生部長。自治体、大学、関係金融機関との協創による地域活性化をミッションとしている。これまでの経験とスキルを活かし、仕事を通じて地域貢献をしていくことが目標。趣味は昨年から再開した油絵。デザイン思考を実装しながら、アジャイル型スタイルで前人未踏の領域へのチャレンジを続けている。



プレ・レクチャー 2

9.17(土)13:30～15:00

『農業DX スマホで行う遠隔農業』

下村 豪徳氏

(株) 笑農和 代表取締役社長

富山県の農家生まれ。システム会社に入社後、生産管理、購買業務のシステム開発にSEとして従事。メインフレームでの業務システム運用、インターネットを介したSCM(サプライチェーン・マネジメント)の構築などの経験を経て2013年に株式会社笑農和を設立。2017年より農業×IoTを活用したスマート水田サービスpaditch(パディッチ)の運営を開始。現在は様々なメディアに出演し注目を集めている。日本農業情報システム協会の理事も務める。

会社URL <https://enowa.jp/>

製品URL <https://paditch.com/>



富山大学 全学横断
PBL 事前プログラム

下村豪徳氏

100年後も美味しいお米を食べられる
未来へ 孫世代に産業として確立された
農業を残す。
For sustainability. Switch to smart rice paddies.

A photograph showing three white Paditch smart rice paddy system components: a vertical water meter, a control box, and a pump unit, all labeled 'paditch'.

ミニ・レクチャー

9.27(火) 9:15～10:15

『日本酒を売りに、 ヨーロッパに出かけてみて…』

榎田 隆一郎氏

(株) 榎田酒造店 代表取締役

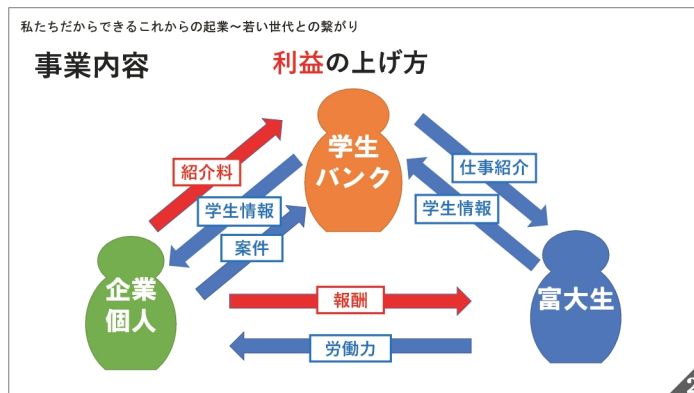
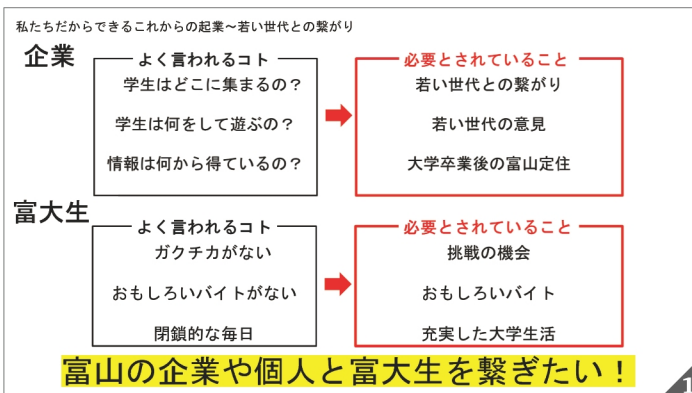




各グループのテーマ一覧

1. 私たちだからできるこれからの起業
2. 『地域に点在する〇〇』で、SDGs
3. 富山のライブ・データ、その活用方法を考える
4. 富岩運河を活かしたまちづくり
5. 富山の『お土産（お持ち帰り！）』
6. これからの時代の新たな－シェア－を考える
7. 富山の魅力を伝える新たなPR法
8. 富山でユニバーサルデザイン
9. 楽しい・新たな「歩き・回遊」で健康をデザイン
10. 目利き観光客が「納得」する、富山〇〇ツアー
11. 廃校の新たな活用方法を考える
12. 森林の循環利用をデザインする
13. ジオパークで遊びをザイン
14. 路面電車のネットワークとまちづくりを考える

1 私たちだからできるこれからの起業



私たちがだからできるこれからの起業～若い世代との繋がり

紹介料の相場

企画協力	5人パック	¥15,000- (¥3,000-/1人)
イベントスタッフ	3人パック	¥6,000- (¥2,000-/1人)

学生
バンク

3

私たちがだからできるこれからの起業～若い世代との繋がり

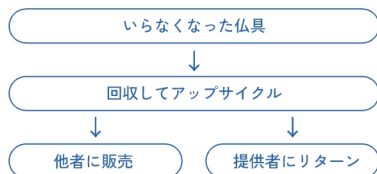
富山の学生 ほとんどが五福周辺に
→学生のつながりは部活やサークルのみ

都市部に比べて閉鎖的だからこそ、実現可能性が高い！

富山だからこそできること

4

2 『地域に点在する〇〇』で、SDGs



1

⑫ つくる責任、つかう責任 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

日常的に排出されるようなゴミに関してはあらゆる対策がなされている。

しかし、今後ゴミになってしまうであろうモノへの対策を講じる必要があると考えた。

2

周知の方法

GO FOR KOGEI、高岡クラフト市場街、RENEWなどの工芸に関わるイベントへの参加や、「ていねいな暮らし」を求める層への、インターネットメディア、雑誌などを使った周知が考えられる。

ポップアップストアの展開

BEAMSは伝統工芸や地方の産業などに強い関心を持っているため、サービスの拠点を仏具のまち高岡に据えることで、ポップアップの開催などで注目を集められる可能性が高まる

3

伝統的な技術や文化を持続させていくための取り組みとも言える。

4

理学部：松本 歩華 芸術文化学部：二上 晴君 都市デザイン学部：谷口 瑞歩／米澤 瑞起／西沢 至恩

3 富山のライブ・データ、その活用方法を考える

食堂の現状と課題

食堂の売上推移	売上額と廃棄量
2019年度の売上：約3.4億円	平均入客数：1800人
2020年度の売上：約1.6億円	平均客単価：500円
2021年度の売上：約2.5億円	食品廃棄率：2% (金額ベース)

コロナ禍の売上減少
売上回復の停滞



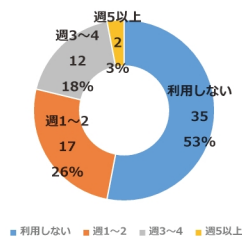
ライブデータを活用
して食堂における
様々な課題を解決

1

食堂利用の現状	改善策
・売上を増やしたい (食堂)	①状況に応じた価格の 適正化を考える
・廃棄を減らしたい (食堂)	②混雑状況の把握
・食堂の商品が高い (学生)	
・昼の食堂が混雑している	

解決策① 状況に応じた値段の適正化

夜ご飯に食堂を利用する割合 (n=66)



食堂の利用に関するアンケートを実施
対象：全学横断PBLの履修者 (学生)
日時：9/27
回答者数：66人

表1. アンケートから予想される割引きに応じた変動

一日当たりの入客数/人	割引き/%	値段/円	売上/円
15.50	0	500	7750.00
17.96	10	450	8082.27
18.32	20	400	7326.86
19.58	30	350	6851.49

アンケート結果を基に計算を行い、適切な
割引は売上の増加につながることを確認

2

解決策② 混雑状況の把握

食堂に人数カウントができる
ライブカメラを導入



混雑率を算出

$$C = \frac{A-L}{S} \times 100 (\%)$$

(C：混雑率 A：入場者数 L：退場者数 S：席数)

混雑状況の基準

100%~70%	大変混雑
50%~70%	やや混雑
0%~50%	空き



活用方法

富大INFOで周知！
利用分散を促す！



3

まとめ

状況に応じた値段の適正化

混雑状況の把握

ライブ・データを用いた適切な予測



売上の増加、食堂全体の利便性の向上

「食堂と学生のWINWINな関係の構築」

4

4 富岩運河を活かしたまちづくり

富岩運河周辺地域の現状と課題解決プラン

1

現状

- 1.運水公園
- ・世界一美しいと謳われたスタバ&天門橋。
 - ・イベントが多い。

- 2.運水公園外の富岩運河通路
- ・人々の憩いの場となっていない。
 - ・数箇所も中島開門までしか整備されていない。

3.富岩水上ライン

- ・中島開門の水位エレベーターが人気。
- ・時間が1時間以上かかり、金額も安くない。
- ⇒乗船までのハードルが高い。

4.岩瀬地域

- ・年齢層が高く、若者に魅力が知られていない。
- ・空き家がある。
- 5.岩瀬カナル会館
- ・2階の利用がほとんどない。
- ・若者の利用者がいない。
- ・来場者数が平日と土日祝で変化がない。

2

課題解決プラン

- 岩瀬の歴史ある街並み
と
富岩水上ラインや運河周辺地域
一度は体験してもらいたい！
魅力を伝えたい！！

- クルーズ船と岩瀬カナル会館に着目した
観光プランを作ろう！
ターゲット：県内外のファミリー層
⇒富岩運河を活かした観光まちづくり

課題解決のための4つの改修案

1

クルーズ船内での楽しみ方

- 富岩運河の歴史解説(従来通り)
- 設置されている机を固定する。
- 岩瀬伝統のお酒の試飲[大人向け]
- 「☆例田酒造店×富岩クルーズのコラボ企画」
(※例田隆一郎氏との相談ができれば良かった…)
- 船内でのクルーズ船模型工作[子供向け]



2

岩瀬カナル会館のリノベーション

- 利用されていない2階を宿泊施設として改装。
- 風情ある和の旅館をイメージ。
- 運河の方向はガラスを増やす。
- ⇒富岩運河と繋がる岩瀬運河の景色観してもらおう。



課題解決のための4つの改修案

3

スタンプラリー

- ・子供にもツアーを楽しんでもらうためのスタンプラリーを開催。
- ・各スポット8カ所あるうち5カ所以上のスタンプ押印でくじ引き。
- 1等 クリスタルグラス
- 2等 クルーズの周辺無料チケット
- 3等 お菓子



【図1】
<https://www.tokai-nippon.co.jp/pc-tube/STAMPラリー1.jpg>



4

観光ツアー

- 観光プランは以下の通り。
- 10:10 クルーズ船乗船
 - 11:10 岩瀬到着&昼食
 - 13:00 岩瀬観光

- ②
東岩瀬の街なみ
富山競輪場
岩瀬浜でSUP体験等

- 17:00 リノベーションした新岩瀬カナル会館で宿泊
帰りは1日フリーチケットでライトレールに乗車して
富山駅へ！

- クルーズ船+1泊宿泊セット
大人 10,000円/人
小人 5,000円/人



宣伝方法と効果



チラシを作成

- ・学校などで配布する事で子供から大人へと周知。
- ・県内観光客が増加する事で認知度や話題性を獲得。
- ・SNSでも発信することで若者にも宣伝。



- ・クルーズ船の利用者数増加
- ・県外からの観光客増加
- ・富岩運河の認知度向上
- ・岩瀬カナル会館の活性化
- ・岩瀬の町に経済的効果
- ・次の世代への継承
- が期待できるのでは!!

5 富山の『お土産（お持ち帰り！）』

目標

お土産を通じてファンやリピートを獲得!

課題

富山の土産と言ったらこれ! 若い人向けのお土産が少ない。 というようなお土産がない

解決案

富山アソート

悩んだらこれ! 有名な富山のお土産詰め合わせ

富山カメラ

富山で過ごした一瞬を記念としてお土産に!!

富山アソート

概要

- ・中身は食べ物だけでなく、工芸品も含む。
- ・お土産セットは3種類でそれぞれメインが、お酒、ジュース、工芸品。
- ・各お土産に、そのお土産についての情報を載せる。(販売店の情報、他の味、見学や製作体験の情報)
- ・食べ物はいくつかの内から好きなものを数種類選んで詰め込む。

箱のイメージ (帯に越中和紙を使用)

箱の中身の例 (例えば地酒がメインのAセット(¥5000(税込))なら)

①食(この中から3つ)	②地酒(この中から1つ)	③すずテト
・常温白エビ 1袋(10g) ・白エビ撰 8枚 ・高岡ラムネ 1袋(10個) ・ますのすし(小) 2個 ・ほたるいかに煮干し 20g ・甘金丹 3個	・滴寿泉 300ml ・はなや 300ml ・立山 300ml ・宇奈月ビール 450ml	手のひらサイズの、お酒の味をまるやかにする錫錆物

富山カメラ (富ルンです)

概要

- ・ターゲットは若い世代。写ルンですを貸出し、回収時に写真の現像とデータをプレゼントしてお土産に!
- ・設置場所は駅などのイベントブース、タクシー。開催は季節のイベントごと (春: おわら風の盆、冬: 雪の大谷 など) にし、客のリピートも狙う
- ・#富ルンですで投稿してもらう。観光客が撮影したものをデータとして預かり、富山県のsns投稿やPRにも使用
- ・写ルンですは再資源率95%の製品なので環境負担も少ない。貸し出し(レンタル)によって本体代(1500~1700円前後)が安くなるため、お金のない学生や若い世代にとってもより手が届きやすい。
- ・まだ実際の需要が分からないので、まずはレンタルで高い認知拡大、好評だったら本体販売も考える。

商品イメージ (富山限定カラー)

スマホ写真とは違う写真の独特の色味。現像するまで分からない偶然性とドキドキ感が若者にウケている (インスタ#写ルンですは135万投稿)

料金コース例(先払い、フィルムと現像代込み)

- ・データのみコース→3400円
- ・プリントのみコース→3700円
- ・データ&プリントコース→4000円
- ・スマホ現像→通常L判45円 葉書サイズ60円

まとめ・今後の展望

富山アソート

効果: お土産を通して、現地に来てもっと食べてみたい! 実際に体験してみたい! と思ってもらう。

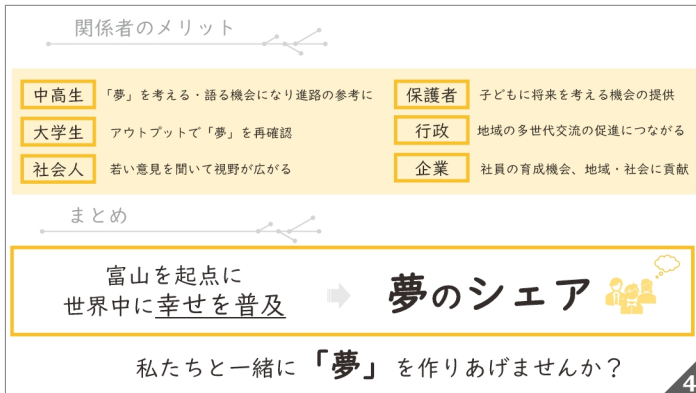
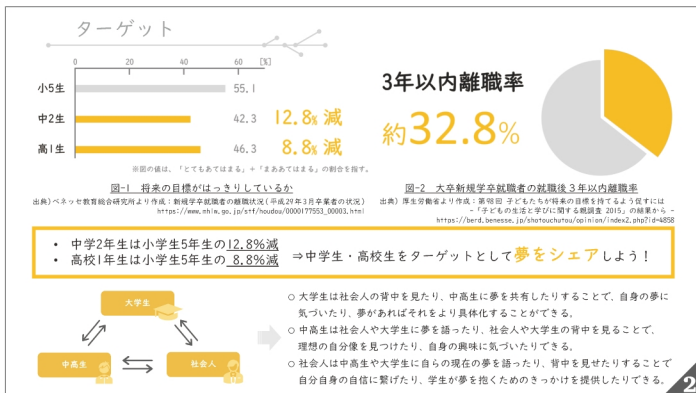
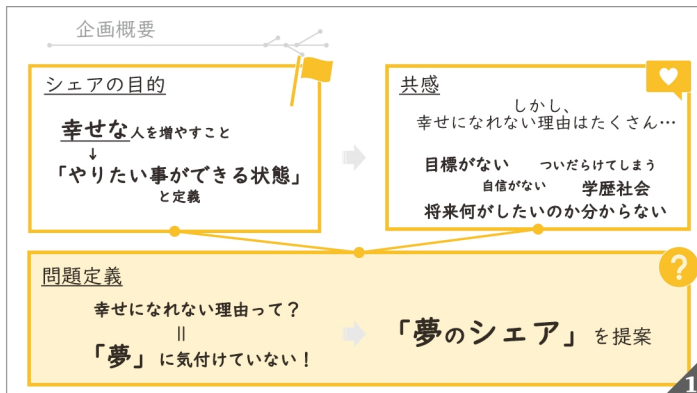
課題: 各お土産を生産している企業の協力が必要。販売場所の確保が必要。ふるさと納税で販売してもいいかも?

富山カメラ

効果: 富山で過ごした時間をお土産にしてもらう。若い人を呼び込むと同時に、SNSに投稿してもらい、宣伝効果も期待できる。

課題: 実行には人材確保が必要。また、現像時間をどうするか→お土産購入時間に当ててもらう?

6 これからの時代の新たな「シェア」を考える



薬学部：大山 智広 都市デザイン学部：清水 雅矢／高柳 碧伽／益田 耕佑／山崎 未侑

7 富山の魅力を伝える新たなPR法

富山の魅力って？

豊かな自然？
食？
観光地？
薬？
街？
富山平野？

→最大の魅力は

住みやすさ



リモート主流の世の中



×都市集中型
○地方分散型

富山の企業も
就活の選択肢に
含まれるように！

1

いつのまに移住体験

空き家
×
ふるさと納税
×
インターン



学生
→インターン
自治体
→税金GET
企業
→人材発掘



実際の生活で住みやすさを実感

2

いつのまに移住体験

様々な形への応用が可能

対象

- ・就活生
- ・部活、サークル合宿
- ・出張
- ・長期旅行
- ・制作



方法

- ・ふるさと納税
- ・イベント連携
- ・大学生協
- ・移住支援サイト

3

結論

魅力(住みやすさ)に気づく

↓
移住者増加(労働人口増)

↓
経済力上昇

↓
魅力感じる人増加

富山を訪れる
ハードルが下がる



**関心・関連人口
増加**

4

人間発達科学部：高桑 楓佳 経済学部：高木 美優 都市デザイン学部：水野 凌輔／望月 雄斗／平田 結佳

8 富山でユニバーサルデザイン



富山の現状

高齢化が進む
車を持っていない人が移動不便
バスが不便で利用しにくい

富山のバスの問題点

時刻表がわかりづらい
時間通りに来ない
バス停が使いづらい（屋根やベンチがない）
バスターミナルが使いにくい
バスの行き先がわかりにくい
混雑している

移動手段をユニバーサルに

富山駅バスターミナルのユニバーサルデザイン

行き先がわかりにくい問題

バスラッピングの色分けと模様分け



西行き
呉羽方面
（芸術創造
センターの
屋根の模様）



南行き
笹津方面
（ますのすし
ミュージアムの
ますずしの
模様）

など...沿線地域の特性を取り入れた模様分け

買い物のユニバーサルに

貨客混載を用いた移動



レンタサイクルの充実



移動手段をユニバーサルに
→行き先が一目でわかる

若者、高齢者、外国人観光客なども
バスを快適に利用できる

買い物をユニバーサルに
→買い物の負担軽減

高齢者、子育て世帯なども
自由に買い物しやすくなる

車を持っていない人でも生活しやすくなる
ユニバーサルデザインのまちづくり

参照: https://www.asahi.com/articles/ASPDH1F43PD38PE007.html?ref=pc_photo_gallery_breadcumb (最終閲覧:2022/10/7)

人文学部：高木 愛奈 人間発達科学部：富田 陽介 都市デザイン学部：蔡 剣華／秋山 祐樹／寺脇 歩／齊藤 廉

9 楽しい・新たな「歩き・回遊」で健康をデザイン

まず、外に出る一歩を！
～外で歩き、結果的に健康を目指す～

＜ターゲット層＞ 健康意識低の18～20代前半の若者

新型コロナウイルス

体力減・精神的に不安定

イベントを通して対面で会話
「歩こうクラブ」

心身ともに健康に

【楽しい散歩イベントの企画募集】
・イベント知名度向上
・当選した企画には景品

【イベントの告知】
・SNSを使って拡散
・大学のメールやアプリで告知

【イベントへの参加、仲間を作る】
・夜に実施→紫外線対策
・昼に比べて涼しいため歩きやすい
・会社終わりや、学校の時間の融通が利く
・参加者を18～20代前半に限定→年齢が近く、参加しやすい

診断テストで決めよう！

診断テスト

図1. 参加イベント決定方法

【歩こうクラブ活動例1】 ～ファミリーパーク巡回コース～

表1 ファミリーパーク巡回コース行程

18:00	ファミリーパーク入口付近 集合
	とほ活アプリ説明、グループ分け発表
18:30	園内見学開始 フラミンゴ・キリン等の見学
19:10	チェックポイント1 (ペンギン前) クイズ等のイベント
19:25	園内見学再開 オオカミ・ライオン等の見学
20:00	チェックポイント2 (レッサーパンダ前) クイズ等のイベント
20:15	園内見学再開 ニワトリ・ウマ等の見学
20:15	園内見学再開
20:30	見学終了 再度とほ活アプリの説明 ポイント配布、解散

とほ活アプリとは？

富山での歩くライフスタイルの実現を啓発する
キャンペーンの一環で導入されているアプリ

活動のポイント1
参加者にとほ活アプリの導入を促進し、
「歩き継続」のための種をまく

活動のポイント2
チェックポイントを設定し、親睦を
深めつつ、
歩くことへのイメージを改善
チェックポイント1の役割
「歩き」から注意をそらし、
交流を楽しんでもらう

チェックポイント2の役割
交流を促進しつつ、「歩数」に注目し
歩数は意外に稼がやすいことを実感
してもらう



【歩こうクラブ活動例2】 ～岩瀬浜で街歩き&星空コース～

表2 岩瀬浜で街歩き&星空コース行程

19:00	東岩瀬駅 集合
	とほ活アプリ説明、コース説明
19:20	出発
19:35	古い街並み 着 古い街並みを探索 ex)立ち飲み、和菓子
20:05	古い街並み 発
20:10	富山港展望台 着
20:25	富山港展望台 発
20:45	岩瀬浜 着
	岩瀬浜散策・星空観察
21:05	岩瀬浜 発
21:20	岩瀬浜駅着・解散 再度とほ活アプリの説明 ポイント配布、解散

【再度とほ活アプリとは？】
富山での歩くライフスタイルの実現を啓発する
キャンペーンの一環で導入されているアプリ

活動のポイント1
参加者にとほ活アプリの導入を促進し、
「歩き継続」のための種をまく

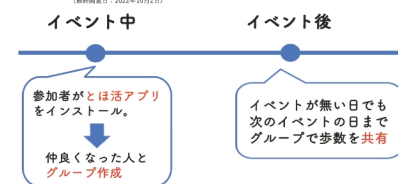
活動のポイント2
チェックポイントを設定し、親睦を深め
つつ、
歩くことへのイメージを改善

お酒や甘いものを取り入れることで、会話が
弾むであろうという作戦。

そして、夜に岩瀬浜散策・星空観察を行う
ことでより親密になれる！

【“歩き”の継続化】

とほ活アプリのグループ機能を使用



【まとめ】

皆で歩いて心身共に健康になろう！継続は力なり

10 目利き観光客が「納得」する、富山〇〇ツアー

富山の隠れた魅力を 体験できるツアーの提案

私達の考える目利き観光客の定義

富山県について知識を持ち
時間と金銭に余裕がある人

定義から考えた具体的なターゲット

時間と金銭に余裕があり
60歳以上の旅好き
第二の人生を考えている方

1

〇目的

富山の活性化

- ・富山の隠れた魅力（伝統工芸、日本酒、グルメ）を体験してもらう。
- ・このツアーをきっかけに目利き観光客に何度も来てもらう。
- ・第2の人生を富山で過ごすことを検討してもらう。

〇体験型ツアーにすることで

地域に特化した観光を提供

- ・多くの人が主要な観光地に訪れたことがあるため、観光の多様化が求められる。
- ・体験型にすることで、多様化するニーズに応え、差別化を図ることができる。
- ・差別化することで、客単価を上げることが可能。（15万円程度を想定）

〇PR方法

行政と連携

- ・行政機関のWEBサイトに掲載
- ・ふるさと納税の返礼品に設定

2

ツアーの行程

②雨晴温泉 磯はなび

①漆器くにもと

③能作本社工場

④若鶴酒造

⑥井波彫刻総合会館

⑤庄川温泉風流味道座敷
ゆめつり

1日目	2日目	3日目
新高岡駅集合	旅館出発	旅館出発
	スズづくりの体験	彫刻見学
漆器の見学・体験	工場見学・自由時間	富山駅へ(悪い出語り)
旅館到着	酒造見学・試飲	自由解散
	旅館到着	

3

〇ツアーいちばんの目玉

若鶴酒造で日本酒の仕込みを体験

- ・通常では体験できない、このツアーだけの特別な体験。
- ・完成した日本酒は自宅へ配送

〇ツアー終了後に

ガイドブックを進呈

- ・ツアー行程になかった知る人ぞ知る名所を記載し、再び訪れてもらうことを促す。

ツアーに参加

富山へ移住

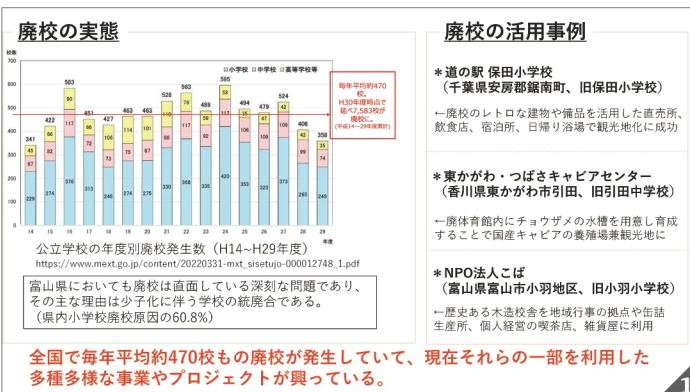
富山へ再訪

富山を
活性化

4

芸術文化学部：坂本 龍一 都市デザイン学部：阿島 大輝／大木 聡子／奥野 一樹／平野 瑠香

11 廃校の新たな活用方法を考える



富山県内の事例

富山県内の事例

- ・山間部のみならず都市部での統廃合による廃校が今後計画されている。(耐震工事を済ませたようなまだ利用可能な校舎であり、近隣はまだ人が住んでいるような学校である)
- ・地域住民による廃校に対する反対意見が多く寄せられている。(子供の賑わいの消滅による地域過疎化への懸念、愛着ゆえの反感によるものなど)

→今回は富山市呉羽地域に存在し、統廃合による廃校が計画されている**富山市立長岡小学校**を仮定して適当な廃校利用を考える。

そこで成功するのか、求められているのかを考慮した際、ここに観光地化を狙った道の駅やレトロさを売りにした美術館、収入源として今流行りのシェアオフィスを設けるのは不適切である。

呉羽地域の小学校の統廃合計画 (R3.5.1)
https://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cmt/3/23879/1/07_2_6_2kureha.pdf?20220320104320

児童数158人と
絶対に少ない数
ではないが
(統廃合である
廃校までは
徒歩30分)

～長岡小学校を地域の人たちのサードプレイスに～

<交流拠点として>

「富山型デザインサービス」を参考にした年齢、国籍、性別、障がいの有無に関係なく交流し互いに助け合う唯一無二の場所の創造。

- ・学校に遠くない子通学路沿いの場所に
- ・知り身の高齢者が会食を求めて
- ・親の帰りが遅い子の遊び場

<防災拠点として>

地域のシンボルとして存在していた学校が持っていた住民の避難場所としての役割は廃校後も失わなければならない。

- ・空き教室を物資貯蔵スペースに
- ・お泊り会など避難所生活を体験
- ・制震工事である場合が多く安全

<文化拠点として>

廃れてゆく校舎に地元住民が虚しさを感じるほどに愛されていた廃校は地域文化を紡ぐ拠点として最適である。

- ・祭りや伝統芸術の練習場所に
- ・空き教室を資料館としての利用

家でも職場(学校)でもない自身の第三の居場所

コミュニケーション
だいさん

おとな

- ・リモートワーク (at 職員室)
- ・ヨガ教室 (at 空き教室)
- ・音楽スタジオ出し (at 音楽室)

子ども

- ・料理教室子ども食堂 (at 家庭科室)
- ・絵本貸し出し (at 図書室)
- ・PC教室 (at パソコンルーム)

お年寄り

- ・園芸サロン (at 空き教室)
- ・放課後広場 (at 体育館、グラウンド)
- ・自習室 (at 空き教室)
- ・楽器体験 (at 音楽室)
- ・天体観測 (at 屋上)
- ・夏休みには学校に泊まろう！、冬のお餅つき＆消火器体験、地域合同体育祭、ハロウィン撮影会など定期的なイベントも開催予定！

視点を変えて・・・廃校の可能性 (日本にまだないユニークな廃校利用法)

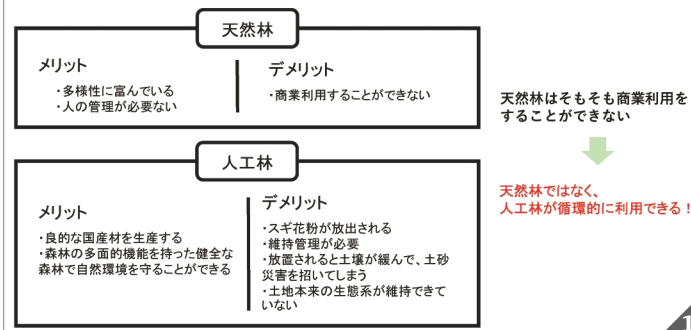
『廃校』×『パチンコ』×『ホテル』

- ・パチンコは年間20兆円を生むコンテンツである。
- ・パチンコをするにはパチンコ台を用意すればよい空き教室をそのまま利用できる。
- ・レトロ自販機などの近年のレトロブームはパチンコでも大いに期待でき、廃校という空間と相性が良い。
- ・実例として三重県の伊勢神宮前にあるパチンコ屋は日本で唯一、大晦日に限り夜通し店がやっておりそれを求めて全国から人々が遠征に来るほどの需要がある。
- ・人里離れた廃校を考慮した時、交通の便や立地の良し悪しに関わらず集客をするためにはコアな需要を満たす必要があり、パチンコホテルはその条件に当てはまる。
- ・廃校は既に多様な活用がされており生半可な珍しさや二番煎じでは大人数の認知は期待できないが、この組み合わせは前例はもちろん存在せずインパクトも強い明確な宣伝効果が見込める。

廃校は現在増え続けていて様々な活用方法がある。その地域の特性を考えた活用をすれば再び人々に愛される場所になる。廃校の可能性は無限大である。

12 森林の循環利用をデザインする

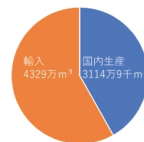
共感



1

問題定義

木材自給率は約41%であり
半分以上輸入品で賄っている



日本は木が多いのになぜ

規模が小さいから

- ・効率が悪く高コスト
- ・人手不足
- ・林業の孤立化

すなわち日本の林業の問題点は

- ① 人手不足
- ② 林業の孤立
- ③ 競争力がない

図1 令和2年度 総需要量 (丸太換算)
7443万9千m³

日本は木が余っているが人手不足で価格が高くなり売れない

2

アイデア

大規模事業化 一つの大きな会社を作る

① 大規模化

植林、管理、伐採、加工、販売の一連の事業を統一
大規模な加工場を作り、加工することで大量生産する

② 輸送の工夫

トラック輸送では輸送費や人件費がかかりすぎるため
伐採後の丸太材の輸送に既存の鉄道を用いる

③ 機械化

重機を遠隔で操作できるようにすることで、今まで
人の手でやっていた作業を機械化

全国規模の大規模化により
林業の孤立化を防止する

大量生産、輸送の工夫のコストカットによって、木材単価を下げ、海外製品との競争力をつける

機械化による効率化、安全性の向上で人手不足の解消

3

まとめ

木があるが、国内自給率が低い

人手不足、林業の孤立化、競争力が低い

大きな会社を作る

新しい森林利用循環
木材の地産地消、自給自足

4

理学部：澤越 美幸 都市デザイン学部：高島 駿貴／田辺 佑樹／藤本 悠雅／木山 和紀／鈴木 翔太

13 ジオパークで遊びをデザイン

立山黒部ジオパーク 高低差4000mロマン

図-1 出典) 立山黒部ジオパーク® <https://tatekuro.jp/>

ロケ地マップ

○ジオパークとは
地質・地形から地球の過去を知り、
未来を考えて、活動する場所

地球科学的意義のあるサイトや景観が
「保護」、「教育」、「持続可能な開発」のすべて
を含んだ総合的な考え方によって管理された、
1つにまとまったエリア

○ジオパークの現状と課題

- ・知名度の低さ
→知名度調査 約4割が「ジオパークをしらない」
- ・来訪者・会員数減少
→収入減少につながってしまう
- ・県内者の意識が低い
→身近にあるため、魅力に気づけない

図-2 出典) 剣の山
https://kysm.or.jp/ken_geopark.html

神通川編 立山黒部ジオパーク協会 富山大学

富山ジオパーク教室
標高差4000mの山を体験できる、通年イベントに参加して学びませんか？

川の上流、中流、下流それぞれ3地点で山から海におよぶ土地の成り立ち、歴史、文化を学べるイベント

上流、下流からのコースで高低差4000mを疑似体験

山、川、海のつながりを同時に学ぶイベントに
単発ではなく連続、運動するものでリピーターにつなげる

時期や内容によって
川の変更、プログラムの組み換え可

1か月後 イベント①

1か月後 イベント②

1か月後 イベント③

神通川編 立山黒部ジオパーク協会 富山大学

富山ジオパーク教室
標高差4000mの山を体験できる、通年イベントに参加して学びませんか？

神通川上流、中流、下流それぞれ3地点で
山から海におよぶ土地の成り立ち、歴史、文化を学べるイベント

上流からのコースで標高差4000mを疑似体験

②富山市まちなかエリア(10月)

10:00 富山城
神通川の歴史を学ぶ
11:45 ますの寿司
手作り体験と実食
15:00 呉羽山散策
富山の地形を学ぶ

③富山市・岩瀬エリア(11月)

10:00 科学博物館
深海についての学習
11:15 環水公園～岩瀬 遊覧船
12:25 昼食 深海パフェ
13:30 岩瀬の町並み散策

①猪谷・神通峡エリア(9月)

10:00 道の駅 猪谷 集合
10:30 鮎・イワナ釣り体験
12:00 昼食 (釣った魚を調理)
13:30 庵台峠 展望台からの紅葉
14:30 川下り体験

図-3 出典) 地理院地図を一部改変 https://maps.gsi.go.jp/index_m.html

片貝川編 立山黒部ジオパーク協会 富山大学

富山ジオパーク教室
標高差4000mの山を体験できる、通年イベントに参加して学びませんか？

片貝川上流、中流、下流それぞれ3地点で
山から海におよぶ土地の成り立ち、歴史、文化を学べるイベント

下流からのコースで標高差4000mを疑似体験

②魚津市・扇状地エリア(7月)

10:00 魚津駅集合
10:20 扇山門前分水槽
11:05 魚津登山運動公園で昼食
12:40 六郎丸園地公園
12:40 約2%の勾配体験
14:00 解散

③魚津市・羽杉エリア(8月)

10:00 魚津駅集合
バス移動
10:30 滝澤
11:50 蛇石 昼食
14:10 羽杉の見学
17:00 解散

①魚津市・埋没林エリア(6月)

10:00 魚津埋没博物館集合
10:00 博物館見学
11:10 世界で最も美しい湾
11:40 風の地平線
12:00 昼食
13:00 魚津魚港見学
14:00 解散

図-4 出典) 地理院地図を一部改変 https://maps.gsi.go.jp/index_m.html

理学部：小林 稜河 都市デザイン学部：青木 大和／岩沢 啓太／北川 涼帆／竹内 一真／山岡 凜子

14 路面電車のネットワークとまちづくりを考える

富山市が推進するまちづくり → 提案

富山市が推進するまちづくり

現状から考えた方針

① 公共交通の活性化

総曲輪は賑わいが足りない

② 公共交通沿線地区への居住推進

まずは若者（大学生）に足を運んでもらう

③ 中心市街地の活性化

中心市街地の活性化、路面電車の利用者増加

影響が波及してまちづくりに

→ **シェアスペースを総曲輪に**

〈企業や個人が自由に活用できる場所を提供〉

1

シェアスペースについて

活用例

- 共通の趣味の人たちとの交流
- お試し出店 ex... 1 day出店、1week出店
- 展覧会の実施 （個人と企業を繋ぐ）

広めるためには

- SNSでバズるスポットをつくる
- 限定商品、コラボ商品を展開する
- 有名なインフルエンサーに紹介してもらう

2

期待される効果

- 様々なことを体験することができる
- 気軽に物事を始めることができる
- 人とのつながりを縦横の両方向に作ることができる
- 大学卒業後も富山に残りたいという気持ちが生まれる



3

路面電車のネットワークの拡大

路面電車の活用

- アナウンスによる告知
- 電子掲示板による告知
- 料金の割引、無料化
- 総曲輪で使える割引券の配布

自転車共同利用システムの改善

登録時の基本料の支払い
+
31分以降は利用料がかかる



利用しやすくして路面電車とともに活用を！



4

経済学部：山城 秀馬 理学部：木村 萌音 都市デザイン学部：岡田 翔矢／鴻上 慶一郎／廣瀬 翔己／落合 優太

●連携・協力企業団体

【連携団体（行政等）】

富山県都市計画課（港湾課／富山港事務所）

富山市 活力都市創造部 交通政策課

活力都市創造部 まちづくり推進課

農林水産部 農林政策課（地域政策係）

商工労働部 観光政策課

企画管理部 企画調整課（政策調整係）

企画管理部 行政経営課

企画管理部 広報課

企画管理部 企画調整課（地域政策係）

【連携団体（企業・各種団体等）】

NPO きんたろう倶楽部

NPO法人 まちづくりスポット

一般社団法人 立山黒部ジオパーク協会

安達建設 株式会社

宮越工芸 株式会社

北陸コンピュータ・サービス 株式会社

GRN 株式会社／北陸コカ・コーラボトリング 株式会社

一般社団法人 Green Down Project

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

NPO 富山応援隊

合同会社 HUGKUMI

一般社団法人 TENKIN LOB ／株式会社 Asian Bridge

富山大学生活共同組合

三井住友海上火災保険 株式会社

株式会社 北陸銀行 地域創生部

株式会社 榎田酒造店

日本総合リサイクル 株式会社

株式会社 富山銀行

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

株式会社 笑農和

ハリタ金属 株式会社

コンチネンタル 株式会社

株式会社 北陸化成工業所

株式会社 越州

●実行委員

【実行委員】

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 渡邊 了 教授
(学部長／実行委員長／授業担当)

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 矢口 忠憲 教授
(副実行委員長／授業担当)

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 佐伯 淳 教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 安江 健一 准教授

【授業担当教員】

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 立石 良 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 堀田 耕平 助教

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 金山 洋一 教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 本田 豊 教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 猪井 博登 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 高柳百合子 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 橋爪 隆 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 並木 孝洋 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 松田 建二 教授

●本学関係協力教員

富山大学 学術研究部 経済学系 高桑 幸一 教授

富山大学 学術研究部 芸術文化学系 奥 敬一 教授

富山大学 地域連携推進機構 地域医療・保険支援部門
藤村 裕子 コーディネーター

富山大学 学術研究部 教育研究推進系 塩見一三男 准教授

おわりに

富山大学では、これからの社会に求められる人材のスキルの一つとして、学際融合教育プログラム、デザイン思考によるイノベティブな協創力を上げています。このスキルは、全ての学部学生の必須要件であるとの考えから、「全学横断 PBL」科目は全学部の学生を対象として設計され、昨年度から夏期集中講義で開講され、今年度3回目をむかえたところです。また、この教育プログラムは応用展開として、新たな大学院のプログラムの中にも取り組まれていると同時に、DX（数理・データサイエンスプログラム）とも連動させています。

「デザイン思考」によるイノベティブな問題解決・提案は、それぞれの学部・大学院で学年進行に伴い体験を重ねスキルアップしていくこと、何よりも地域の皆様方と連動させていただきながら、実際の現場で発見した真の問題を学生の柔軟な発想で具現化し、それをまた現場に落とし込んで検証するといったプロセスを繰り返すといった実践的な体験が重要なのであります。

この度は、私どもの趣旨にご理解賜り、ご協力いただきました企業や行政、他学部の教員の方々には、この場をお借りして感謝申し上げます。本授業をはじめとしたPBL系の授業科目は、来年以降も継続して開講を予定しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

